

前置き表現の認知度に関する調査研究

王 亜 婷

1. 研究の背景

従来の対照分析では、学習者の母語と似た要素は学習者にとって習得しやすく、逆に母語と異なる要素は習得が難しいと考えられる高見(2012)。中国と日本の文化が違い、発話行為のあり方は母語によって微妙に異なるため、日本語学習者が自分の母語の話し方をそのまま適用したのではうまくいかない場合が多い。特に意見の表明は相手の立場を脅かす行為であり、言葉の使い方、話の持ちかけ方で人間関係に大きな影響を与える可能性がある。このような状況で、中国人日本語学習者にとって自分の意見と相手の考えが異なった時にどう言えばいいのか。

また、王(2016)「会話に見られる前置き表現—コミュニケーション・ストラテジーの観点から」では、『半沢直樹』というドラマの中から「依頼」「断り」「意見の表明」に現れた前置き用例が多く観察された。前置き表現は対人関係を円滑に維持するために非常に重要な働きをする要素であり、コミュニケーション上、日本語母語話者は意見を表明するために、また相手に何か依頼する際に、前置きを重要視していることが分かった。中国人日本語学習者は前置き表現をどの程度認知しているのだろうか。また、日本語母語話者と中国語母語話者による、「依頼」「断り」「状況説明」「意見表明」という場面での言語行動の違い、および前置き表現の使用率はどうなっているのだろうか。

☆

2. 研究の目的

本研究では、中国人日本語学習者（以下CJL）、中国語母語話者（以下CNS）、日本語母語話者（以下JNS）を調査対象として、前置き表現に関するアンケート調査を実施する。その調査を通じて、話し手（中国人日本語学習者）がどのような言語表現を使っているか、学習者の前置き表現の認知度を明らかにすることを目的とする。さらに、日本語母語話者と中国語母語話者の比較することによって、「依頼」「断り」「状況説明」「意見表明」という場面における言語行動の違い、および前置き表現の使用状況を考察する。

3. 先行研究

3.1 前置き表現の定義と機能に関する先行研究

大塚（1999）は、前置き表現を「本題に入る前に現れ、コミュニケーションを円滑に進めるための戦略として使用される表現」と定義し、テレビ討論の参加者は、「あの、私の私見ですけども」「ちょっと失礼ですが」のような前置き表現を用いて相手に気を配りながら発話を行っていることを報告している。さらに、日本語のテレビ討論で使われた前置き表現をポライトネスの観点から分析している。発話行為にかかわる前置き表現は、ポライトネスを守ろうとする精神の表れであると考えられると指摘している。

次に、陳（2007）は、前置き表現を「対人配慮型」と「伝達性配慮型」の2種類に分けている。さらに、シナリオデータ3冊から前置き表現使用例168例を収集・分析し、その配慮の表現方法によって前置き表現を6つに分類した。それぞれ「詫び表明」、「理解表明」、「謙遜表明」、「釈明提示」、「話題提示」、「様態提示」という6種類である。

さらに、陳（2010）は、「対人配慮型」前置き表現は聞き手との人間関係を良好に維持しながら、後続する発話行為によるフェイス侵害度を軽減し、円滑なコミュニケーションを保つ機能を有する。「伝達性配慮

型」前置き表現はコミュニケーションにおいて伝達情報がより効率よく伝わるよう、伝達そのものに寄与すると述べている。

3.2 各場面における前置き表現に関する先行研究

日本語の会話では、コミュニケーションがスムーズに進むように、「依頼」や「断り」などの場面で前置き表現がよく使われている。各場面における前置き表現についての先行研究は、次のようなことが明らかにしている。

(1) 「依頼場面における前置き表現」

相手に何かを依頼する際に相手が直接的な表現を使えば、聞き手に不快感を与えるかもしれない。王（2016）は、前置き表現用例164例を収集しているが、その中に、「悪いが、今お前と話してる暇はない」「早速ですが、これを見てもらえますか。」などがあるが、前者は「断り」、後者は「依頼」の前置きとなっている。このような用例が多く観察されたと述べている。

また、大塚（1999）は、その内容が聞き手を不快な気持ちにすることが話し手に予測できる時には、話し手はその不快感をできるだけ軽減するような方法を用いて伝えようとする。いわゆる「会話のストラテジー」とであると言っている。例えば、「鈴木さん、悪いけど、時間があったら、これお願いできませんか」と言った時のことを分析すると、依頼に対する謝罪から始めることが多いことが観察される。前置きなく主題を直接言えば聞き手の不快感が大きくなる。そこで、まず謝罪を言うという前置きをしてから、主題に入るのである。

さらに、周（2014）は、日本国内中国人日本語学習者、日本国内日本語母語話者JPと中国国内中国人日本語学習者、中国国内中国人母語話者を対象に、アンケートを依頼するという場面を設定し、「依頼をする場合」「依頼を受ける場合」「依頼を断る場合」によってそれぞれの研究

対象が使用する表現を分析した。

本研究では、今回の調査結果を考察する上で、周（2014）の結果も比較し、分析する。

(2) 「断り場面における前置き表現」

「断り」とは相手の依頼や要求に対して「その意に沿えない」という意図を表明し、相手に理解してもらおうための発話行為であり、相手との関係維持と「断り」意図の伝達という両方に配慮が求められる言語行為とも言える(尾崎2006)。

周（2008）は、対人関係をスムーズにさせる気配りや配慮をするために、発話の開始部に出現した間接断りの言語表現を「前置き表現」とし、断り言語行動の「開始部」に出現する「すみません」、「行きたいのですが」、「ありがとうございます」などのような言語表現を「前置き表現」とする。「その日ちょっと予定入ってて…残念やけど、行けないわー」、「私は行きたくない」のような、何の表現もなく、直接理由を言う、あるいは理由も言わずに直接断る言語表現は「前置き表現」としては扱わないと述べている。

周（2014）は、依頼を断るとき、依頼者が友達の場合は、JP（日本語母語話者）とC1（日本国内中国人日本語学習者・初級～中級レベル）は差別がないけれども、C2（中国国内中国人日本語学習者・初級～中級レベル）とC3（中国国内中国人母語話者・日本語学習経験無し）はそれぞれの特徴を持っている。C2は「前置き」＋「理由説明」というストラテジーが多いが、C3は「意思表明」＋「自分の状況を説明する」という傾向が強い。依頼者が先輩の場合はJPが「理由説明」＋「代案」のほうが多く回答者に使われている。C1は「理由説明」＋「謝罪」あるいは「意思表明」＋「謝罪」が多いが、C2は「呼びかけ」＋「謝罪」＋「意思表明」＋「別れのあいさつ」のほうが圧倒的に多いが、C3は「意思表明」＋「自分の状況を説明する」/「謝罪」＋「理由説明」

+ 「代案」が使われる母語話者の数の少ないことが分かったと報告している。

本研究では、周（2008）に基づいて、今回の「断り場面」での前置き表現についての分析結果は p 15～ p 16に記載した。

(3) 「意見を表明する際に前置き表現」

柳田（2014）は、前置き表現は対人的な配慮を明示的に示すものであり、反論することによって相手に不快感を与える可能性の高い議論の場においても、その影響を緩和するために使用されていると述べている。

また、山下（2001）は、前置き表現を「主に意見記述部の直前に位置し、意見提示が円滑に行われるために機能する表現」と定義し、母語話者と中国人日本語学習者の意見文を比較し、学習者は日本語母語話者よりも意見提示前の前置き表現が、数およびバリエーションともに少ないことを明らかにした。

さらに、畠（1988）は、外国人に対する日本語教育の中で「会話教育の中心はやはりストラテジー教育である」とし、日本語会話ストラテジーとして24の技術を提示している。これは外国人が日本人と円滑なコミュニケーションを図ろうとする時に必要なストラテジーである。外国人が学ばなければならないということは、逆に言えば、日本人が日常使用しているストラテジーだと考えることができる。24の技術の中から「意見を述べる」ことに関係するものを以下に示す。これらは一般的な日本語会話のストラテジーである。

(1) 「意見を述べる」ことに関係するストラテジー

a. 反対意見を切り出す技術

- ① 原則――反対意見は直接はっきり言わないことを原則とする。ソフトニングが必要である。ただし、くだけた場面ではこの限りではない。
- ② まず相手の意見に賛成して、次に反対意見を言う（よくわかりま

矣

すけど、賛成です、しかしなど)

- ③ 相手の意見の一部に賛成しながら、反対意見を言う (それはそうですがなど)

はっきり、直接言う (それは違います、それはダメだなど)

b. 重要な発言を切り出す技術

原則——直接言わずに前ふれを置く (これはいつも考えていたことなんです、もしかすると賛成していただけないかもしれませんがなど) 畠 (1988)

大塚 (1999) は、上記(1)からわかるように、反対意見を述べる時には、もちろん反対であることを直接述べるという方法もあるが、直接的には表現しないのが日本語の原則で、その場合には「率直に申し上げますが」といった前置きが必要となる。特に重要な発言をする場合には、前ふれを置くことが原則であると述べている。さらに、討論場面における前置き表現について、ポライトネスの観点から考察し、反対意見を述べる場合、前置き表現は相手の消極的面子の侵害度をできるだけ小さくしようとするために用いられるとしている。

本研究では、畠 (1988) の(1)に基づいて、「意見表明」という場面での言語行動の違い、および前置き表現の使用率について分析する。その結果は本論文の6.4および6.5に記載した。

4. 研究方法

4.1 調査時期と調査協力者

本調査は2017年8月から9月にかけて日本 (金城学院大学) および中国 (洛陽師範大学) で実施した。調査協力者は中国人大学生と日本人大学生であり、年齢は19歳から31歳までである。

具体的には、(1)言語行動の違いを調査するために、中国語母語話者、日本語母語話者それぞれ40人、合計80人に調査を行った。また、(2)日本語のレベルの違いによる学習者の認知度も明らかにするために、中国

人日本語学習者を2, 3, 4年生に分けて、それぞれ25人に対して調査した、合計75人である。

また、2年生は初級レベル、3年生は中級レベル、4年生は上級レベルに相当すると思われる。さらに、学習者のうち日本語能力試験N1に合格した人が7人、不合格の人が68人である。学習者は全て中国国内の日本語専攻の学生であり、日本での滞在歴がなしということである。在日の学習者の日本語レベルに対応させることが難しいが、今回の調査は在日の学習者を考慮しないことにした。

4.2 調査方法

本研究のデータの収集は、アンケート調査によるものである。上記(1)および(2)の被調査対象に対して、それぞれのアンケート調査票3部を作成した。アンケート調査を実施し、当該項目の使用状況と認知度を測定した。

アンケート調査票は論文のp26～p38に記載した。中国語母語話者に対して、日本語のアンケート調査票をそのまま使えないため、中国語の訳文(添付資料2)で調査を行った。

5. 前置き表現の認知度

5.1 中国人日本語学習者の日本語能力別の習得状況

本節では、アンケート調査結果により、中国人日本語学習者の日本語能力別の習得状況を記述する。次の表1に示したとおりである。

本研究は、協力者CJL75人であるが、アンケート調査結果を統計する際、一部の回答者は関連する問題を記入していないため、合計の数字と75は異なる場合がある。しかし、無回答は考慮しなかったため、調査結果には影響を与えない。

以上の結果を通じて、前置き表現に対しての認知は、CJL (75) 人のうち、43人 (57%) が「聞いたことがある」で、「よく知っている」人

五

表 1：日本語能力別の習得状況

	アンケート調査選択肢	二年生	三年生	四年生	CJL 合計
認知度	よく知っている	3	3	4	10
	聞いたことがある	13	14	16	43
	知らない	10	8	4	22
使用状況	よく使っている	4	3	3	10
	時々使う	11	16	16	43
	使わない	9	5	7	21
習得時間	一ヶ月以内	1	5	2	8
	一ヶ月～半年	2	3	3	8
	半年～一年	8	3	2	13
	一年以上	9	7	14	30

は少なく、10人である。それについて、「知らない」人が22人で、29%を占めている。また、使用状況の結果を見ると、43人（57%）が「時々使う」で、「よく使っている」人は少なく、10人である。それについて、「知らない」人が21人（28%）である。認知度と同じ傾向にあると見られる。さらに、習得時間については、75人のうち、30人（40%）が1年以上前置き表現を習得した。

日本語教育の現場において、明確に前置き表現に関する知識を導入しない。そのため、その定義、機能と使い方、また前置き表現がどのような表現か、どのような言葉を使うだろうかということに対して、CJLは認知度が低いと思われる。

以上の分析を通じて、日本語教育において、前置き表現の概念は日本語の授業で明確に提示していないということがうかがえる。一方、教科書の中で、接続助詞「が」、「けれども」等の文法的機能を強調することが多く、前置き表現を説明しているテキストが十分ではないという現状があるため、明確に前置き表現の概念を導入し、その機能、使い方、言葉遣い等を十分に説明することは特に重要であると思われる。さらに、

山下（2002）は、学習者が日本語における意見を表す文書にて効果的に前置き表現を用いながら主張を展開するためには、前置き表現が体系的に整理され、学習者に提示されることが望まれると述べている。さらに、黄（2014）によれば、学習者に定型表現のみを示すことで指導するのは不十分であり、コミュニケーション能力を重視すべきとされている日本語教育では、学習者に単なる表現形式だけでなく、適切なコミュニケーションの行動に合わせて言語表現の多様性を教えることも大切であると述べている。教育の現場では、敬語を単純に導入するべきではなく、敬意を表明する観点から「敬語」と「前置き表現」を導入するほうが習得上の効果があると考えられる。

次に、日常生活では、CJLの発話行為によく使っている前置き表現を調査した、結果を以下の表2に示してある。

表2：よく使っている前置き表現
（アンケートにこの項目の選択を複数可に設定した）

中国人日本語学習者		二年生	三年生	四年生	CJL合計
前置き	あの～	18	19	20	57
	すみません（申し訳 ございません）が	17	18	21	56
	失礼ですが	10	12	16	38
	ちょっと	6	10	19	35
	（聞きたい）ですが （けど）…	5	5	13	23
その他	おはよう	0	3	0	3
	えーと	0	1	4	5

柏崎（1992）は、日本語母語話者と日本語学習者を対象に、大学職員に対する「依頼」「要求」の話し方を録音、観察し、日本語母語話者の約9割に、「すみませんが」「あの～」「失礼します」など、相手の負担に配慮した前置き表現が現れるという結果を示している。一方、日本語学

習者の発話に現れた前置き表現には、「あの～」「すみませんが」だけでなく、「こんにちは」「ちょっと」も多用されており、相手の負担に配慮するというよりはむしろ、親しみを示すといったポジティブ・ポライトネスの一つとして使用されていると述べている。今回の調査結果は柏崎(1992)と同じ傾向にあるが、学習者の会話に現れた前置き表現には「おはよう」、「こんにちは」、「えーと」も使用されていることが分かった。ただし、「呼びかけ」は使われていない。

5.2 前置き表現の使用理由

今回のアンケートでは、CJLの前置き表現に対する認知度を調査しただけでなく、前置き表現の使用理由についても調査した。調査結果を表3にまとめた。

表3：前置き表現の使用理由

(アンケートにこの項目の選択を複数可に設定した)

理 由	二年生	三年生	四年生	CJL合計
相手の面子に配慮するため	3	8	9	20
勉強した日本語ではその言い方をするから	15	13	14	42
もっと全面的に観点を述べるため	5	7	9	21
前置き表現を話す間に、次に言うことが考えられる	11	16	21	48

表3に示すように、CJLの前置き表現の使用の理由については、「前置き表現を話す間に、次の言うことが考えられる」が最も多く、48人が選択した。説得の準備を行ったり、対人的な配慮を表したりするための前置き表現を使う傾向があることが分かった。

また、「勉強した日本語ではその言い方するから」という理由が多く見られるのに対して、「相手の面子に配慮するため」のほうが多く、20人である。

一方、山下（2001）では、日本語母語話者は依頼場面、意見提示の際に相手の面子を保つための配慮を示す表現を選択することが多いと述べているが、今回の調査結果を比較すると、日本語母語話者はCJLより相手の面子に配慮するため、前置き表現を用いることによって、良好な人間関係を保つことがわかった。

5.3 日本語学習前後の変化

日本語の表現がコミュニケーション能力に影響を与えてしまっている可能性があると思われるため、今回のアンケートの最後に「日本語を勉強する前と現在を比較して、他人とコミュニケーションする時会話の運用に変化はありましたか？」という項目を設定した。ここに書かれたコメントを見ると、90%の学習者が「変化はありました」と回答した。学習者が日本語学習後の変化を整理しており、以下のようにまとめられた。

- ① もっと謙遜で、相手の気持ちを配慮するようになってきた。
- ② 話し方が曖昧、婉曲になった。
- ③ 日本語の勉強しながら、日本人の言い方も勉強する。
- ④ 日本語の話し方で、婉曲に言うと、相手は納得しやすい。

以上の調査の結果、学習者はコミュニケーションにおける相手への配慮についての意識を持っていると見られる。許（2014）は、コミュニケーションは相手が存在してこそ成立するもので、常に相手のことを考えなければならない。そのような意味では、相手を意識することはコミュニケーションにおいて最も重要なことであると述べている。学習者もそのような意識を持っているということ、相手のことを配慮するという意識を持っていることが分かった。

6. 「先行部」における意味公式の使用状況に関する結果

6.1 構造と意味公式に着目した先行研究

王（2016）は「半沢直樹」における164の前置き表現について分析した結果、日本語の会話の展開パターンについて、次のような要素から構成されることがわかった。「呼び掛け→相手への配慮を含む前置き表現→主題部」だった。本研究では、アンケート調査により、呼びかけの出現がないため、呼び掛けを除いた要素を分析の対象とする。

また、前置き表現の有無により丁寧度は変化があり、前置き表現を使う会話と使わない会話では相手の印象が異なるため、前置き表現の有無に関して、周（2008）は、回答に現れた最初の意味公式を「開始部」と認定したと述べている。意味公式とは、発話行為を構成する最小の機能的な意味単位を指す（藤森1996）。

さらに、徐（2006）、黄（2011）の構造を参考に、談話を大きく「先行部」「主題部」「終了部」の三つの部分に分類する。また黄（2015）の定義を参考に、「先行部」「主題部」「終了部」について以下の定義を記す。

「先行部」：会話において、「主題」に入る前に前提条件を尋ねたり状況を説明したりする段階である。

「主題部」：主題の開始から内容の伝達、意志表示に至るまでの一連の言語行動を表す段階である。「断る」「依頼」などによって開始され、日にちや場所など主題の内容を巡る具体的なやり取りが展開される。

「終結部」：会話を終了させる部分。

本研究では、兎玉（2015）の分類に従って、「先行部」を中心に分析する。

さらに、兎玉（2015）によれば、回答部分の前置きを7種類に分類した。それぞれの分類は「～先行型」とし、「直接型」、「状況理由説明先行型」、「状況確認先行型」、「将来の約束先行型」、「詫び先行型」、「呼称先行型」、「フィルター先行型」と呼ぶことにしたと述べている。具体的に

以下の定義に記す。

「直接型」：前置きを使用せず結論を直ぐ述べ、直接行為を要求する発話行為。

「状況理由説明先行型」：発話の始めに話し手の状況・理由説明が出てくるもの。

「状況確認先行型」：発話の始めに聞き手の状況を確認するもの。

「将来の約束先行型」：発話の始めに将来の約束を述べるもの。

「詫び先行型」：発話の始めに「詫び」が出てくるもの。

「呼称先行型」：発話の始めに「呼称」が出てくるもの。

本研究では、アンケート調査の「先行部」に現われた意味公式を抽出し、それらの意味公式によって、(依頼, 断り, 意見表明, 状況説明) 場面、「前置き表現」について、調査対象者 (CNS, JNS, CJL) の使用状況を分析・考察を行った。黄2015, 周2008の分類を参照し、筆者が修正・加筆したものを分析の枠組として用いることとする。以下の表にまとめた。

6.2 「依頼場面」

日本語母語話者 JNS の約 9 割の 37 人 (92%), 「すみませんが…」という聞き手に配慮した前置き表現が現れるという結果を示している。

和田 (2008) は、「依頼表現」は、前置き・本題・終結という構造を持つ。前置きには、「よびかけ」「謝罪」「状況説明」「理由説明」などがある。日本語母語話者の場合、この前置きの部分で、相手の状況を探ったり、本題に入る前のポライトネスストラテジーを使っている。それについては、中国人日本語学習者が、前置きがなく本題に入るケースが多いと述べている。しかし、今回の調査では、CJL が「お金を借りる」用件を相手に依頼する場合、「詫び先行型」を多く使用しており、75 人のうち、60 人 (93%) であった。

鄭 (2009) は、日本語母語話者については「もしご都合がよろしけれ

哭

表 4：意味公式の分類表①

(今回の調査に出ているもののみ) (黄2015, 周2008を参照, 筆者改定)

依頼場面			アンケート調査から対応する例	
先行部 有 無	先行部	意味公式及び解釈	日本語	中国語
○	「詫び先行型」	(詫び表明) 陳 (2007) 聞き手に詫びることで対人関係に配慮した表現	「すみませんが、お金を貸してくれませんか	虽然我觉得挺不好意思的, 可以借我点钱吗
○	「状況確認先行型」	(都合う) 相手の状況を尋ねる	該当例なし	你还有多余的钱吗?
×	「直接型」	(依頼予告) 黄 (2014) 依頼の前提となる情報のやり取り	お金を借りたいのですが…	我想向你借点钱, 但是…
×	「直接型」	(直接依頼) 児玉 (2015) 前置きを使用せず結論を直ぐ述べ, 直接行為を要求する発話行為。	お金を貸してください	借我点钱

ば」などといった「気配り発話」が多いことや「今日夕飯でも一緒にどう？」などといった相手の「意向」を尋ねる表現を多用していること、さらに意味公式の使用順序に見られた特徴から、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー重視の傾向が強いと指摘している。しかし、今回の調査では、CNSが本題に入る前に「状況確認先行型」という相手の状況を尋ねることが多く見られた。40人のうち、約半分の16人(40%)であった。

次に、「詫び先行型+本題部」が多く、11人(27%)であり、そのうち、日本語学習歴がある人が9人である。日本語を学習したことがある人は、中国語母語話者より前置き表現、あるいは丁寧な表現を使っている場合が多いと言える。

一方、「直接型」「本題部」というケースが最も少なく、3人(7%)しかない。従来の研究では、中国語母語話者が直接本題入ることが多いと述べているが、また、周(2014)は、中国国内中国人母語話者・日

本語学習経験無しは「呼びかけ」＋「前置き」, 「呼びかけ」＋「直接依頼」, 「呼びかけ」＋「依頼予告」という依頼ストラテジーがよく使われている。なぜなら, 「呼びかけ」は中国語の普段のコミュニケーションをする時, 重要な位置を占めると思われるからである。今回の調査では, CNSは直接型が少ないことが観察された。また, 「呼びかけ」は使われていない。その原因は一部が日本語学習したことがある人であると考えられる。

6.3 「断り場面」

表5：意味公式の分類表②

(今回の調査に出ているもののみ) (黄2015, 周2008を参照, 筆者改定)

断り場面			アンケート調査から対応する例	
先行部 有 無	先行部	意味公式及び解釈	日本語	中国語
○	「詫び先行型」	(詫び表明) 陳 (2007) 聞き手に詫びることで対人関係に配慮した表現	「すみませんが、私もお金がなくて	不好意思, 最近手头有点紧
○	「状況理由説明先行型」	(弁明) (周2008) 相手の意向に添えない理由の説明	「用事があるので、行けません	因为我有件事, 所以去不了
○	「状況理由説明先行型」	(共感を表す) 同調や好意の表明であり、相手の意向に沿いたい気持ちを表す (周2008)	「行きたいですが、ちょっと…	虽然我很想去, 但是…
×	「直接型」	(行動要求) 直接行為を要求する発話行為	お金を貸してください	借我点钱
○	「将来の約束先行型」	(確認) 返事を後回しにする	スケジュールをチェックしてから…	我先看下那天有没有事再告诉你
×	「直接型」	(結論) 相手の意向に添えず、それ自体で直接的な断り (周2008)	貸したくないです。行けません。	我不能借给你。我去不了。

呉

今回のアンケートでは、相手の依頼を断る場合、「つまり借金を断る時」と相手からの誘い断る場合、「つまり誘われたパーティーに行きたくない時」、という場面を設定した。

その結果、相手の依頼を断る場合、JNS29人（72%）が「詫び先行型」を用いた。「聞き手に詫びることで対人関係に配慮した表現」陳(2007)を多用された。また、11人（27%）が「本当は貸したいですが」という話し手の立場を明示することにより共感を表すことで、聞き手に話し手の主張が正当なものである印象を与えている。1人のみ「貸したくないです／他の人に頼んでください」という「直接型」前置き表現が使用された。CNSの半分以上で21人（52%）「詫び先行型」という前置き表現を使用しているが、JNSより使用率が低いと見られる。さらに、14人（35%）がJNSと類似した傾向が示されており、相手に共感を表す表現を使っていることが分かった。

一方、JNS23人（58%）「状況・理由説明先行型」前置き表現が多用されており、発話の始めに話し手の状況理由が出てくるものを先に立たせ、その後にくる主要な言語内容の相手に関する話し手の心的態度がうかがえる。それについては、JNSよりCNSの使用率が少なく、13人（32%）であった。

6.4 「状況説明」

上記の調査を行うことにより、相手に状況を説明する場合、また、意見表明する場合、各調査対象（JNS、CNS、CJL）がどのような表現を使用するか、以下に考察した。

表 6：状況説明についてアンケートの調査結果統計

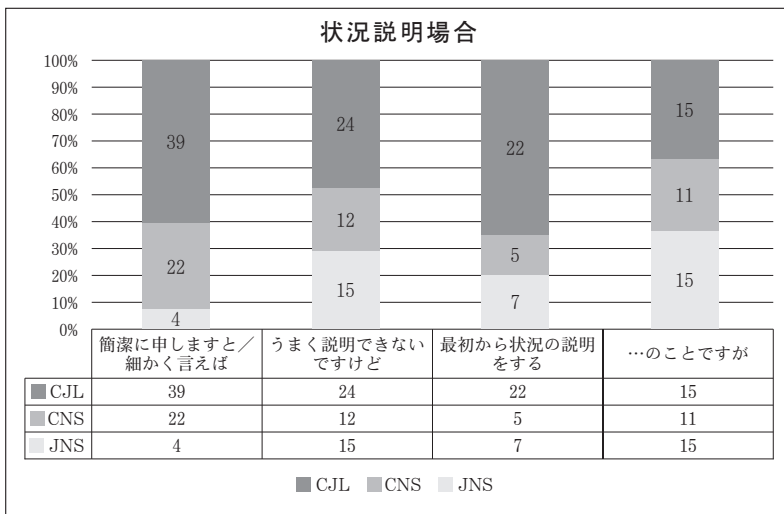


表 6 に示したように、調査対象者の間に差が最も大きく見られたのは、「簡潔に申しますと/細かく言えば」で、次は「最初から状況の説明をする」のように直接表現の使用である。

まず、陳（2007）は、「簡潔に申しますと/細かく言えば」のような言葉を「伝達性配慮型一様態提示」に分類している。それらを次にいかに発話するかということを前もって聞き手に伝え、次の内容について細かくいうか、一口で簡単に言うかという伝達の様態を示した表現と定義している。それらにより、CNSとCJLは同じ傾向にあり、「簡潔に申しますと/細かく言えば」を多く使用しているのに対して、JNSのみが異なっていることがうかがえる。CNSとCJLは前置き表現がより簡単な説明になる傾向があり、主題部に早めに入る気持ちが強いと考えられる。

次に、JNSとCNSは「うまく説明できないですけど」のような「謙遜表明」型前置き表現の使用率の差が小さく、CJLのほうが多く見られた。CJLの多く使用していることにより、学習者が自分自身のこと

四

れについて、陳（2007）は、話し手が自分自身について慎ましく言及することにより、聞き手との人間関係を害さないように配慮した表現であると述べている。

さらに、「最初から状況の説明をする」という表現では、JNSとCNSは同じ傾向にあり、CJLのみ異なっている。相手に状況を説明する場合、CJLはJNS、CNSに比べ、自分の状況を、次の内容に対する前置き表現を用いずに、相手に明示的に示すということが分かった。その差異が生じる背景には学習者の母語である中国語の表現構造が日本語と異なっている事情があり、学習者はそれに影響されていることが考えられる。

6.5 「意見表明」

表7：意見表明についてアンケートの調査結果統計

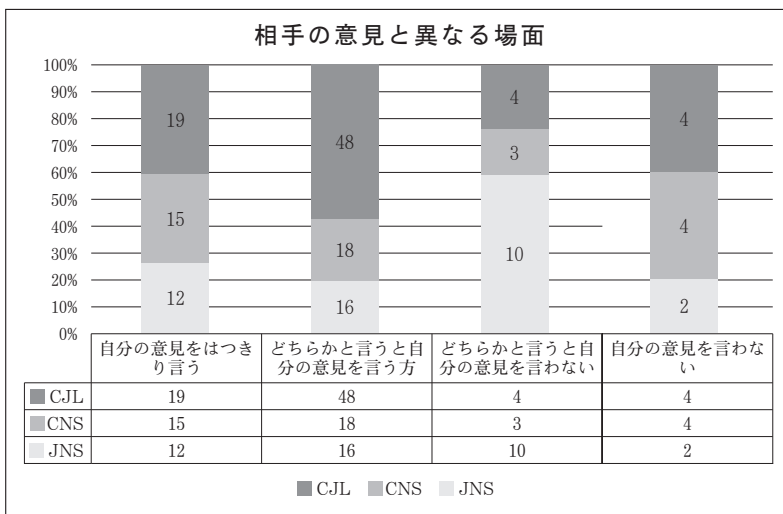


表7に示したように、JNS（40人）、CNS（40人）、CJL（75人）の中で、それぞれ28人（70%）、33人（83%）、67人（89%）が「自分の意見を言う方」を選択したのに対して、「自分の意見を言わない方」では、

JNS12人(30%), CNS7人(17%), CJL8人(11%)であった。

以上のことを通して、相手の意見と異なる場合、JNSがCNSより自分の意見を言わない人が多いことが分かった。また、「どちらかという自分の意見を言う方」に着目すると、CJLが圧倒的に多く、「態度保留」(王2006)、「回避」などのストラテジーの使用率が低いと推察できる。王(2006)では、相手の発話に対して、食い違った思考を抱いているが、肯定、否定、同意、反対などをしたりせず、自分の態度を顕在化しないと述べており、CJLが自分の意見を相手に表明することが多いということを明らかにしている。また、Pan(2000)に従えば、ポライトネス理論をもとに、相手の意見が異なる場面における中国人母語話者の言語行動を考察することによって、意見表明の処置に際して、職位、性別、年齢などの社会的な要素が言語行動の選択にもっとも影響するからである。

次に、今回のアンケート調査結果により、調査対象者の言語行動の選択を記述する。次の表8に示したとおりである。

学習者の不使用に注目すると、表8では、CJLは、上下関係という要因の影響性がJNSとCNSと同じような傾向をもっているのに対し、「会議、討論会、発表など」のような教育場面での影響性については、JNSとCNSより大きいことがわかった。なぜなら、正式な場合は、CJLは中国語で意見を表明する際に、「相手の意見に反論してから、自分の意見を言う」のような、王(2006)が述べている、「相手の発話の適切性・妥当性について否定的態度を示したり、相手と食い違った自分の認識・主張を述べたりする」人が33人(44%)見つけられ、日本語での意見表明の場合よりも多く、JNS、CNSとの間に差が見られた。そのため、CJLは、JNSとCNSと同じように上下関係を重視するにもかかわらず、学習者は、JNSとCNSよりも教育場면을重視する傾向があることがうかがえる。

また、CJLは、日本語で意見を表明する際には、母語よりも「相手

表 8 : 調査対象者の言語行動表

場面		言語行動	JNS (40)	CNS (40)	CJL (75) (日本語 で表明)	CJL (75) (中国語 で表明)
(会議、 正式な場 討論会、 発表) など	同調	相手の意見に一回賛成 してから、自分の意見 を言う	26 (65%)	37 (93%)	58 (77%)	35 (47%)
	直接	最初から自分の意見を 言う	6 (15%)	0 (0%)	5 (7%)	5 (7%)
	非同調	相手の意見に反論して から、自分の意見を言 う	4 (10%)	3 (8%)	11 (15%)	33 (44%)
	回避	何も言わない	4 (10%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (5%)
目上の人と雑談する 場合	同調	相手の意見に一回賛成 してから、自分の意見 を言う	28 (70%)	36 (90%)	58 (77%)	54 (72%)
	直接	最初から自分の意見を 言う	2 (5%)	1 (3%)	8 (11%)	6 (8%)
	非同調	相手の意見に反論して から、自分の意見を言 う	0 (0%)	0 (0%)	5 (7%)	14 (19%)
	回避	何も言わない	10 (25%)	3 (3%)	4 (5%)	1 (1%)
目下の人と雑談する 場合	同調	相手の意見に一回賛成 してから、自分の意見 を言う	21 (53%)	27 (68%)	40 (53%)	34 (45%)
	直接	最初から自分の意見を 言う	14 (35%)	2 (5%)	16 (21%)	9 (12%)
	非同調	相手の意見に反論して から、自分の意見を言 う	4 (10%)	10 (25%)	19 (25%)	32 (43%)
	回避	何も言わない	1 (3%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)

の意見に一回賛成してから、自分の意見を言う」のような丁寧な言語行動を多く行うことがわかった。王 (2006) は、このような相手の発話に対して食い違った思考を抱いているが、応答する際には同意を示すような注目表示を行ったり、相手の述べたことを尊重したり、発展させたり、

相手の意見などを受け入れたりすることを「同調的」と呼んでいる。

さらに、王（2006）は、相手の発話に対して、食い違った思考を抱いているが、肯定、否定、同意、反対したりせず、自分の態度を顕在化しないことを「態度保留」と定義している。それらに関して、「目上の人と雑談する場合」では、JNSはCNSとCJLに比べ、「何も言わない」のような「態度保留」、「回避」の使用が多く見られた。JNSは上下関係を自分の意見を表明することより大切であると考え、目上に対しては、尊敬を表す上下関係を優先させるということが本研究の表7で考察した結果と一致している。

まとめ

本研究で得られた結果を以下にまとめる。

今回研究では、中国人日本語学習者の前置き表現に対する認知度、および日本語母語話者と中国語母語話者による、「依頼」「断る」「状況説明」「意見表明」という場面での言語行動の違い、前置き表現の使用状況が明らかになった。

前置き表現の定義、機能と使い方、および前置き表現とはどのような表現なのか、どのような言葉を用いるのだろうか。中国人日本語学習者のそれらに対する認知度が低いという現状がある。また、会話に現れた前置き表現には、「あの～」「すみませんが」だけでなく、「おはよう」、「こんにちは」、「えーと」も使用されているが、「呼びかけ」は使われていないということがわかった。さらに、前置き表現の使用の理由については、「前置き表現を話す間に、次の言うことが考えられる」が多用されており、説得の準備を行ったり、対人的な配慮を表したりする前置き表現を使う傾向がある。コミュニケーションにおける相手への配慮についての意識を持っていると考えられる。

次に、アンケート調査の「先行部」に現れわれた意味公式を抽出し、それらの意味公式によって、（依頼、断り、意見表明、状況説明）場面、

「前置き表現」について、調査対象者(CNS, JNS, CJL)の使用状況を分析・考察した。以下のことが明らかになった。

① 相手に依頼する場合、CJLは「詫び先行型」を多く使用し。CNSが本題を入れる前に「状況確認先行型」という相手の状況を尋ねることが多く、「直接型」が少ないことが観察された。また、「呼びかけ」は使われていない。

② 相手に断る場合、CNSの半分以上が「詫び先行型」という前置き表現を使用しているが、JNSより使用率が低いと見られる。さらに、JNSと同じ傾向にあり、相手に共感を表す表現を使っている。JNSでは「状況・理由説明先行型」前置き表現が多用されており、発話の始めに話し手の状況理由が出てくるものが先に立たせ、その後にくる主要な言語内容の相手に関する話し手の心的態度がうかがえると考えられる。それについては、JNSよりCNSの使用率が少ないことがわかった。

③ 相手に状況を説明する場合、CNSとCJLのほうがより簡単な説明になる傾向があり、主題に早めに入る気持ちが強いと考えられる。JNSとCNSは「謙遜表明」型前置き表現の使用率の差が小さく、CJLのほうが多く見られた。CJLの多く使用していることにより、学習者が自分自身のことを謙遜することによって相手への配慮を示すということが分かった。

CJLはJNS、CNSに比べ、自分の状況を、次の内容に対する前置き表現を用いずに、相手に明示的に示すということが分かった。

④ 相手の意見と異なる場合、JNSがCNSより自分の意見を言わない人が多いことが分かった。「どちらかという自分の意見を言う方」について、CJLが圧倒的に多く、「態度保留」(王2006)、「回避」などのストラテジーの使用率が低いと推察できる。

完 ⑤ CJLは、上下関係という要因の影響性がJNSとCNSと同じような傾向をもっているのに対し、「会議、討論会、発表など」のような教

育場面での影響性については、JNSとCNSより大きいことがわかった。学習者は、JNSとCNSよりも教育場면을重視する傾向があることがうかがえる。CJLは、日本語で意見を表明する際には、母語よりも「相手の意見に一回賛成してから、自分の意見を言う」のような丁寧な言語行動を多く行うことがわかった。JNSはCNSとCJLに比べ、「何も言わない」のような「態度保留」、「回避」の使用が多く見られた。JNSは上下関係を自分の意見を表明することより大切であると考え、目上に対しては、尊敬を表す上下関係を優先させるということが明らかにした。

今後の課題

今回は、中国人日本語学習者が「意見表明」する際に、どのような言語行動をとるかを明らかにしたが、母語とどのような相違点があるかについての分析は十分に行えなかった。今後、上述の結果を踏まえ、より豊かな対照分析に基づく検討が必要であると考えている。また、言語行動に示された傾向における母語からの転移や第二言語習得過程における語用論的転移の実態などを考察していきたい。

参考文献

- 児玉正子（2015）「中国人日本語学習者の前置き表現に関する一考察：日本人大学生と中国人留学生を比較して」『芸術科学大学紀要』(21), pp155-166.
- 山下みゆき（2001）「日本語学習者の前置き表現の使用の実際―課題に基づく意見文より―」（メリーランド大学）
- 山下みゆき（2002）「日本語母語話者と学習者による前置き表現の印象の相違」『日本語教育論集』(18), pp45-57
- 徐孟鈴（2006）「依頼会話の【終結部】の考察―日本人・台湾人・台湾人上級学習者の接触場面のロールプレイデータを比較して―」

『言葉と文化』(7), pp.67-84.

黄明淑 (2015) 「誘い」談話の「承諾」場面の終結部における中日言語行動の比較：負担度が異なる2場面から」『言語文化と日本語教育』 Vol.48-9, pp.22-31.

黄明淑 (2011) 「誘い」表現における中日対照研究—共同行為要求に着目して—」『日本語/日本語教育』(2), pp.137-153.

黄明淑 (2014) 「話題の切り出しから「誘い」の意思決定に至るまでの一連の言語行動：中国語母語話者と日本語母語話者の比較」 pp41-55.

周升干 (2008) 「断る場面における「前置き表現」について：中国の日本語学習者と日本語母語話者の比較」 pp.189-210.言語文化学研究. 言語情報編3

柏崎秀子 (1992) 「談話の展開の仕方が丁寧度に与える影響」『日本教育心理学会第34回総会発表論文』 pp.307.

鄭在恩 (2009) 「日韓の勧誘ストラテジーについて」『言葉と文化』(10), pp113-132.

藤森弘子 (1996) 「関係修復の観点からみた「断り」の意味内容日本語母語話者と中国人日本語学習者の比較」『大阪大学言語文化学』5号 pp5-17 大阪大学言語文化学会

陳臻渝(2007) 「日本語会話における前置き表現」『言語文化学研究言語情報編』2号 pp.99-115.

陳臻渝(2010) 「現代日本語の前置き表現の記述的研究」

周芸 (2014) 「依頼場面における配慮表現について—中国人学習者を中心に

王亜婷 (2016) 「会話に見られる前置き表現—コミュニケーション・ストラテジーの観点から—」

三 和田由理恵, 堀江薫, 北原良夫, 吉本啓 (2008) 「日本語学習者の依頼におけるポライトネスストラテジー—日本語学習者の母語と日本語

- の比較一』『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第3号
- 許明子, 金東奎, 姚艷玲 (2014) 「中級レベルの日本語学習者のコミュニケーション能力の現状とニーズ：日本・中国・韓国の学習者を対象とした調査と実践を通して」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』(29), pp.1-17.
- 王玉明 (2006) 「接触場面における不一致への応答－中国人学習者と日本語母語話者の相違」『多文化共生社会における言語管理－接触場面の言語管理研究 vol.4 千葉大学大学院社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書』129, pp.69-78.
- 大塚容子 (1999) 「テレビ討論における前置き表現－ポライトネスの観点から－」『岐阜聖徳学園大学紀要 教育学部外国語学部』 pp.117-131.
- 高見澤孟 (2012) 『新・はじめての日本語教育 1』
- 柳田直美 (2014) 「議論の場における「他者発言容認の前置き表現」使用の縦断的变化－中国人日本語学習者の場合－」
- 畠弘巳 (1988) 「外国人のための日本語会話ストラテジーとその教育」『日本語学』第7 卷第3号 pp.100-117.
- 尾崎喜光 (2006) 「依頼・勧めに対する断りにおける配慮の表現」『言語行動における「配慮」の諸相』 pp.89-114
- PanYuling (2000) 「Politeness in Chinese face-face Interaction Advances in discourse process」 v.67. Stamford:Ablex Publishing Corporation.

「添付資料1」

「調査対象：中国人日本語学習者」

前置き表現に関するアンケート調査票

研究内容として「日中前置表現」について調査しています。みなさんに調査をご協力いただき、アンケートについて答えていただきたいと思いません。

みなさんの回答は個人が特定されない形で処理され、みなさんの個人情報が入れたり、研究以外の目的に利用されたりすることはありません。ご協力をお願い致します。

質問に先立ち、あなた自身のことについてお伺いします。ただし回答したくない項目については記入しなくて結構です。

[当てはまるところに○をつけるか、()に書き込んでください]

- a. あなたの性別は？ 男 () 女 ()
- a. 日本語学習歴は？ ()年 ()カ月
- a. 日本滞在歴は？ ()年 ()カ月
- a. 日本語能力試験N1に合格している。 はい () いいえ ()

質問

以下の項目から選んで○をつけてください。

- 1. あなたは前置き表現を知りますか？
よく知っている () 聞いたことがある () 知らない ()
- 2. 前置き表現を知ったのは、日本語を勉強してからどれくらいですか？
 - a. 一ヶ月以内
 - b. 一ヶ月以上半年未満

- c. 半年以上一年未満
- d. 一年以上

3. あなたは前置き表現を使いますか？

よく使っている () 時々使う () 使わない ()

使っている人はどのような言葉を使っているかを具体的に書いてください。

()

4. あなたにとって、よく使う前置き表現を選んでください (複数可)。

- a. あのー
- b. すみません (申し訳ございません) が
- c. 失礼ですが
- d. ちょっと
- e. (聞きたいです) が (けど), …
- f. その他 ()

5. 前置き表現を使う理由として、当てはまるものを選んでください (複数可)。

- a. 相手の面子に配慮するため
- b. 勉強した日本語ではその言い方をするから
- c. もっと全面的に観点を述べるため
- d. 前置き表現を話す間に、次に言うことが考えられる

6. 相手の意見と異なる場合、あなたにとって最も当てはまる行動を選んでください。

- a. 自分の意見をはっきり言う
- b. どちらかという自分の意見を言う方
- c. どちらかという自分の意見を言わない方
- d. 自分の意見を言わない

7. (会議, 討論会, 発表など正式な場で), 相手の意見に反対意見を日本語で表明する時, あなたにとって最も当てはまる行動を選んでください

- a. 相手の意見に一回賛同してから, 自分の意見を言う。
- b. 最初から自分の意見を言う。
- c. 相手の意見に反論してから, 自分の意見を言う。
- d. 何も言わない
- e. その他 ()

8. (会議, 討論会, 発表など正式な場で), 相手の意見に反対意見を中国語で表明する時, あなたにとって最も当てはまる行動を選んでください

- a. 相手の意見に一回賛同してから, 自分の意見を言う。
- b. 最初から自分の意見を言う。
- c. 相手の意見に反論してから, 自分の意見を言う。
- d. 何も言わない
- e. その他 ()

9. (目上の人と雑談する場合), 相手の意見に反対意見を日本語で表明する時, あなたにとって最も当てはまる行動を選んでください。

- a. 相手の意見に一回賛同してから, 自分の意見を言う。
- b. 最初から自分の意見を言う。
- c. 相手の意見に反論してから, 自分の意見を言う。
- d. 何も言わない
- e. その他 ()

10. (目上の人と雑談する場合), 相手の意見に反対意見を中国語で表明する時, あなたにとって最も当てはまる行動を選んでください。

- ≡
- a. 相手の意見に一回賛同してから, 自分の意見を言う。
 - b. 最初から自分の意見を言う。

- c. 相手の意見に反論してから、自分の意見を言う。
- d. 何も言わない
- e. その他 ()

11. (目下の人と雑談する場合), 相手の意見に反対意見を日本語で表明する時, あなたにとって最も当てはまる行動を選んでください。

- a. 相手の意見に一回賛同してから、自分の意見を言う。
- b. 最初から自分の意見を言う。
- c. 相手の意見に反論してから、自分の意見を言う
- d. 何も言わない
- e. その他 ()

12. (目下の人と雑談する場合), 相手の意見に反対意見を中国語で表明する時, あなたにとって最も当てはまる行動を選んでください。

- a. 相手の意見に一回賛同してから、自分の意見を言う。
- b. 最初から自分の意見を言う。
- c. 相手の意見に反論してから、自分の意見を言う
- d. 何も言わない
- e. その他 ()

13. 相手に助けを求める場合 (例: お金を借りる時), 下記の言葉の中でよく使うのが ()

- a. お金を借りたいです。
- b. お金を借りたいのですが, …
- c. すみませんが, お金を貸してくれませんか?
- d. お金を貸してください。
- e. その他 ()

14. 相手の依頼を断る場合 (例：借金を断る時)，下記の言葉の中でよく使うのが ()

- a. すみませんが，私もお金がなくて…
- b. 本当は貸したいですが，…
- c. 貸したくないです/他の人に頼んでください
- d. その他 ()

15. 相手からの誘いを断る場合 (例：誘われたパーティーに行きたくない時)，下記の言葉の中でよく使うのが ()

- a. 行きたいですが，ちょっと…
- b. 行きたくないです。
- c. 用事があるので，行けません。
- d. スケジュールをチェックしてから，また教えますね。
- e. その他 ()

16. 相手に状況を説明する時，下記の言葉の中でよく使うのが (複数可) ()

- a. うまく説明できないですが，…
- b. …のことですが，…
- c. (最初から状況の説明をする)
- d. 簡潔に申しますと/細かく言えば
- e. 結論 (結果) から言うと…
- f. その他 ()

17. 日本語を勉強する前と現在，他人とコミュニケーションする時会話の運用に変化はありましたか？

三 ある・ない・どちらとも言えない (日本語でも中国語でかまいません)。

①「ある」を選んだ理由は ()

②「ない・どちらとも言えない」を選んだ理由は（ ）

以上です，ご協力ありがとうございました。

「添付資料 2」

「調査対象：中国語母語話者」

关于前置表现的问卷调查

您好，我现在在调查关于中日语言会话方面的前置表现。想请大家回答问题协助我做一个问卷调查。

关于大家的回答不会用于个人，以及泄露大家的个人信息用于研究以外的事情。

回答问题之前，请填写以下信息，谢谢配合。

性别（ ） 年龄（ ） 文化程度（ ）

有无学习日语的经历（ ）

有的情况下请填写学习时间（ ） 没有可不填

请选择符合你行为的选项，如果没有适当选项，请在（ ）内填写。

1. 当别人正在谈论，而且很明显，他所说的是错误的，你会（ ），请在选项后写下您会以什么会话开头？

打断他的话，并予以纠正（ ）

聆听然后转移话题（ ）

聆听并找出错误之处（ ）

利用反问以使他自己发觉错误（ ）

2. 当在团体讨论中，你和对方的意见不一致，你最可能采取的行动是（ ）

a. 大部分情况都会清楚表达自己的观点

b. 属于比较会说出自己观点的一方

c. 属于比较不会说出自己观点的一方

元 d. 大部分情况下顾虑到对方的感受，不会清楚说出自己的观点

3. 在会议, 讨论会, 发表等正式场合, 当你不同意对方的意见, 准备反驳时, 最经常采取的说话方式是 ()

- a. 先说对方的观点中你赞成的地方, 然后发表自己的意见
- b. 从一开始就发表自己的意见
- c. 先反驳对方观点中你不赞成的部分, 再发表自己的意见。
- d. 什么都不说
- e. 其他 ()

4. 在和自己的长辈 (上司) 闲聊的时候, 当你不同意对方的观点, 准备反驳, 最经常采取的说话方式是 ()

- a. 先说对方的观点中你赞成的地方, 然后发表自己的意见
- b. 从一开始就发表自己的意见
- c. 先反驳对方观点中你不赞成的部分, 再发表自己的意见。
- d. 什么都不说
- e. 其他 ()

5. 在和自己的晚辈 (下属) 闲聊的时候, 当你不同意对方的观点, 准备反驳时, 最经常采取的说话方式是 ()

- a. 先说对方的观点中你赞成的地方, 然后发表自己的意见
- b. 从一开始就发表自己的意见
- c. 先反驳对方观点中你不赞成的部分, 再发表自己的意见。
- d. 什么都不说
- e. 其他 ()

6. 当你向对方请求帮助 (比如向别人借钱时), 你最可能用的表达方式是 ()

- a. 借我点钱可以吗?
- b. 你还有多余的钱吗? 我想向你借一点

六

- c. 虽然我觉得挺不好意思的, 可以借我点钱吗?
 - d. 我想向你借点钱。
 - e. 其他 ()
7. 当你准备拒绝别人的请求 (比如别人向你借钱时), 您最可能采取的表达方式是 ()
- a. 不好意思啊, 最近手头有点紧……
 - b. 我是很想借给你, 但是……
 - c. 我不能借给你, 自己都不够花呢, 你还是找别人借比较好
 - d. 其他 ()
8. 想要拒绝别人聚会邀请的时候, 您最可能用的表达方式是 ()
- a. 因为我有点事, 所以去不了。
 - b. 虽然我很想去, 但是……
 - c. 不好意思, 我有点不舒服, 可能去不了
 - d. 我先看一下那天有没有事再告诉你。
 - e. 其他 ()
9. 当你向别人说明情况时, 你最经常采用的说话方式是 (可多选) ()
- a. 我可能说的不好, 事情是这样的……
 - b. 简单来说/从细节上来说, 这件事是这样的……
 - c. 从结果来说, 这件事是这样的……
 - d. 过于……这件事, 情况是这样的……
 - e. 其他 ()

「添付資料 3」

「調査対象：日本語母語話者」

前置き表現に関するアンケート調査票

現在、研究内容として「日中前置表現」について調査しています。みなさんに調査をご協力いただき、アンケートについて答えていただきたいと思えます。

みなさんの回答は個人が特定されない形で処理され、みなさんの個人情報が入り漏れたり、研究以外の目的に利用されたりすることはありません。

質問に先立ち、あなた自身のことについてお伺いします。ただし回答しにくい項目については記入しなくて結構です。ご協力、よろしくお願いします。

[当てはまるところに○をつけるか、() に書き込んでください]

- a. あなたの性別は？ 男 () 女 ()
- a. あなたの年齢は？ ()
- a. あなたは何年生ですか？ ()

質問

以下の項目から選んで○をつけてください。

1. 相手の意見と異なる場合、あなたにとって一番当てはまる行動を選んでください。
 - a. 自分の意見をはっきり言う
 - b. どちらかという自分の意見を言う方
 - c. どちらかという自分の意見を言わない方
 - d. 自分の意見を言わない

三

e. その他 ()

2. (会議, 討論会, 発表など正式な場で), 相手の意見に反する意見を表明する時, あなたにとって一番当てはまる行動を選んでください。

a. 相手の意見に一回賛同してから, 自分の意見を言う。

b. 最初から自分の意見を言う。

c. 相手の意見に反論してから, 自分の意見を言う

d. 何も言わない

e. その他 ()

3. 「目上の人 (上司, 先生) と雑談する場合」, 相手の意見に反する意見を表明する時, あなたにとって一番当てはまる行動を選んでください。

a. 相手の意見に一回賛同してから, 自分の意見を言う。

b. 最初から自分の意見を言う。

c. 相手の意見に反論してから, 自分の意見を言う

d. 何も言わない

e. その他 ()

4. 「目下の人 (弟, 妹など)」と雑談する場合, 相手の意見に反する意見を表明する時, あなたにとって一番当てはまる行動を選んでください。

a. 相手の意見に一回賛同してから, 自分の意見を言う。

b. 最初から自分の意見を言う。

c. 相手の意見に反論してから, 自分の意見を言う

d. 何も言わない

e. その他 ()

5. 相手に助けを求める場合 (例: お金を借りる時), 下記の言葉の中でよく使うのが

- a. お金を借りたいです。
- b. お金を借りたいのですが, …
- c. すみませんが, お金を貸してくれませんか?
- d. お金を貸してください。
- e. その他 ()

6. 相手の依頼を断る場合 (例: 借金を断る時), 下記の言葉の中でよく使うのが

- a. すみませんが, 私もお金がなくて, …
- b. 本当は貸したいですが, …
- c. 貸したくないです/他の人に頼んでください
- d. その他 ()

7. 相手からの誘いを断る場合 (例: 誘われたパーティーに行きたくない時), 下記の言葉の中でよく使うのが

- a. 行きたいですが, ちょっと…
- b. 行きたくないです。
- c. 用事があるので, 行けません。
- d. スケジュールをチェックしてから, また教えますね。
- e. その他 ()

8. 相手に状況を説明する時, 下記の言葉の中でよく使うのが (複数可)

- a. うまく説明できないですが, …
- b. …のことですが, …
- c. (最初から状況の説明をする)
- d. 簡潔に申しますと/細かく言えば…

- e. 結論（結果）から言うと…
- f. その他（ ）

以上です，ご協力ありがとうございました。